



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3080 号 2016.6.15 発行

News Up 「産後シェア」でママを救え



NHK ニュース 2016年6月13日
 子どもを授かったのはうれしくても、子育てはどんな母親にとっても大変。「産後うつ」になる人もいます。そんな母親たちを救おうと、新たな取り組みが始まっています。その名も「産後シェア」。子育てって、シェアできるものなのでしょうか。

できる範囲で手伝い 大きな支援に

「産後シェア」を発想したのは、愛知県豊田市で3人の子育てに奮闘中の小宮山郁美さんです。

きっかけは、2人目の出産。1人目でさえ大変だったので、「友だちに助けてもらえないかな」と思ったといいます。小宮山さんは今、3人目を出産したばかりで、グループの支援を受けています。

グループのメンバーで共有しているインターネット上のスケジュール表に、例えば、「子どもを風呂に入れて欲しい」とお願いを書き込むと、それを見た余裕のあるメンバーが、名

前を書き込んで支援に行く仕組みです。

小宮山さんは「しっかりと体を休めなければならない産後に、助けてって言える環境がないと無理して動いちゃう女性がたくさんいる。相手が負担にならないくらいに甘えちゃおうかなっていう気持ちです」と話しています。

今、グループのメンバーは30人余り。1人1人が無理なくできる範囲で手伝えば、大きな支援ができるというわけです。

「産後は大変」 ネット上でも

インターネット上でも、子育ての大変さを訴えるツイートが見られます。

「産後1か月は本当に無理しちゃだめだよー！あとあと、がたが必ず来るから」

「1人目のときも産後2か月あたりで体調不良だったし、なんとかならんかのお」

出産後、1～2か月に関するつぶやきもありました。

“産後2か月程度”まで支援

小宮山さんの呼びかけでスタートしたグループ「L a v i e d e F a m」の取り組み、今、注目を集めつつあります。

今月、説明会を開いたところ、愛知県内の各地から、出産を控えた女性や子育て中の母親、18人が集まりました。

「助けを求められる人が近くにいない」

「親はいるけど、祖父母の介護で手一杯で、とても子育てにまで手を貸してはもらえない」そんな母親たちにとっては心強い取り組みだと受け止められたようで、説明会に参加した人は「人に手伝ってほしいってなかなか言えないけれど、こういう仕組みなら頼みやすくなって思いました」と話していました。

ただ、グループでは、取り組みを続けるために一定のルールを設けています。

ほかのメンバーから育児や家事を手伝ってもらえるのは、原則として産後2か月程度まで。この時期は、まだ赤ちゃんの首が据わっていないので、常に両手でだっこしなければならぬなど、1人で育児と家事をこなすのが大変だからです。



助ける側にも回る

そして、大切なのが、助けを受けたメンバーは、助ける側にも回ることです。半年ほど前までグループの支援を受けていた安川綾子さんは、産後の大変な時期を乗り越え、今は助ける側に回っています。

取材した日は、生まれたばかりの子どもと上の子どもの2人を抱えた池田暁子さんから、

食事の用意をしてほしいという依頼

が出されていました。早速、支援の意思表示をした安川さん。野菜のオーブン焼きや、カレーなどの手料理を用意し、池田さんの家を訪ねました。

支援に手を挙げたもう1人のメンバーも訪れて、次の日のおかずまで用意してもらい、池田さんは大助かり。

「産後シェア」の利用を始めて1か月余りの池田さん。

「世界に私と赤ちゃんだけなんじゃないかって気分になっちゃうところに、訪ねてきてくれる友達がいて、気にかけてもらえているんだって感じるだけで本当に幸せでした」と話し、支援だけでなく、子育ての悩みも聞いてもらうことで、精神的にも助かっているといいます。

支援に行った安川さんもやりがいを感じるということで、「自分の子どもの時に、産後1か月、誰かしら毎日来ていただいてありがたかったと思いました。1人で子どもを見るより、みんなで見る方が豊かだし楽しい」と話しています。

全国各地で「シェア」

今、母親たちが子育てをシェアする取り組みは全国各地でも行われ、なかには子どもの送り迎えをシェアするグループもあります。

豊田市のグループが活動を初めて2年。これまで10人の母親の子育てを「シェア」してきました。

助けられたり、助けたり。お互い様があれば、「産後シェア」は続けていける、グループではそう期待しています。

山形) 南三陸と熊本の障害者支援へ 「チームモアイ」 朝日新聞 2016年6月15日

東北公益文科大学(酒田市)の学生たちが、東日本大震災で被災した宮城県南三陸町の障害者らを支援する活動グループ「チームmoreE(モア・イ)」を立ち上げた。7月中旬、障害者たちがつくる「モアイはがき」などのグッズを学内で販売。売り上げの一部を熊本地震で被災した障害者らへの支援金にする。

昨年度のゼミナールで震災地の復興支援を学んだ谷口結万（ゆま）さん（21）ら学生8人が、震災から5年たった後の南三陸町や同町の障害者が置かれている現状を広く知ってもらうためチームを結成した。

被災地の障害者支援を計画した東北公益文科大学の学生たち＝酒田市

南三陸町は、地震や津波の被害を受けたのをきっかけにチリと交流があり、東日本大震災後にイースター島からモアイ像が贈られた。南三陸町の障害者たちがつくるカップやタオルなどにも、このモアイがデザインされている。チーム名はこのモアイにちなみ、南三陸町と「もっと縁」を深め、「もっと援助」をし、町の人々が「もっと笑顔」になるようにと願い、付けたという。

まずは南三陸町内の作業所の商品を仕入れ、7月11～15日の昼休みに学内で販売する。売り上げの目標は5万円。「目標通り売れるかな？」と学生らには心配もあるが、「何とか成功させ、継続的な支援にしていきたい。後輩にも引き継ぎたい」と代表の谷口さん。10月の大学祭にも同様の販売を検討している。（伊東大治）



わんわんパトロール、独居高齢者に気配り

京都新聞 2016年6月13日

京都府長岡京市奥海印寺谷田地区の住民が、犬の散歩中に独居のお年寄り宅を見回る「わんわんパトロール隊」を結成し、孤立防止に努めている。昨年には、自宅で倒れていた高齢者を犬が発見するお手柄もあった。発足から6年、高齢住民への気配りに対して、市老人クラブ連合会（市老連）が隊の活動を高く評価している。

同パトロール隊は、地域で散見された高齢者の孤独死や窃盗被害、犬のふん害などをなくそうと2010年9月に結成。犬を飼っている住民に入隊してもらい、散歩中に独居老人宅の前を通る時、ポストに新聞や郵便物がたまっていないかなどを確認してもらう。不審者のチェックやごみ拾いを行うほか、専門の講師を招いて犬のしつけ教室も定期的開催している。



犬の散歩をしながら高齢者の見守りや不審者をチェックする衣川隊長（左）たち＝長岡京

当初は30世帯で発足し、現在は25世帯ほどが参加している。新たに犬を飼い始めた世帯もあり、入隊を促している。

昨年1月の夜には1人暮らしの高齢女性が自宅玄関で転び、出血状態で倒れているのを巡回中の隊員の飼い犬が知らせ、隊員が119番で救助した。隊長の衣川幸夫さん（77）は「寒い日だったので気づかなければ凍死していたかもしれな

い」と振り返る。

また、犬の散歩中にふんを片付けない飼い主に注意したり、不法投棄されたごみを見つけて整理したりした事例もある。

市老連は、高齢者の見守り活動を評価し、全国老人クラブ連合会が各地の熱心な活動に贈る「活動賞」にこのほど推薦した。衣川さんは「光栄なこと。隊員を増やし、これからも高齢者の見守りと地域の安全確保に努めたい」と、意欲を見せる。

習志野市役所前で解雇撤回のデモ 障害者問題

東京新聞 2016年6月14日

習志野市に正規採用された障害者の男性（28）が試用期間終了後に解雇された問題で、本人と支援するユニオン習志野は十三日、市役所一帯で、宮本泰介市長に解雇撤回と話し合いを求めるデモを行った。

開会中の市議会六月定例会でも問題が取り上げられたことから、「解雇の不当性を広く呼びかけたい」と企画した。雨の中、障害者や支援者ら二十人超が参加した。「宮本市長は解雇撤回を」の横断幕などを掲げ、市役所前から近くの公園までの約一キロを歩いた。

ユニオン習志野の菊池晴知委員長は「議員八人が一般質問する異例の展開。議員に負けず全力で市民に訴えたい」と話している。ユニオンによると、四月二十二日の二回目の交渉を最後に、市は話し合いに応じていないという。



（服部利崇）

「無事で良かった」100人の捜索隊も安堵 福岡・糸島の不明少年発見

西日本新聞 2016年06月14日

福岡県糸島市の二丈岳で行方が分からなくなっていた同市の障害者支援施設に入所する少年（19）が14日朝、無事に見つかった。10日に行方不明になって、4日ぶりの発見。「よく助かった」「無事で安心した」。無事を信じて捜した捜索隊や施設職員からは安堵の声が漏れた。

この日捜索に当たったのは、消防や警察、自衛隊の隊員ら約100人。少年が見当たらなくなった橋周辺を中心に、広範囲に捜索活動を行った。

少年が発見されたのは午前10時20分すぎ。木の生い茂った斜面にしゃがみ込んでいたところを、施設の職員が発見した。少年が目立ったけがはなく、意識もしっかりしている。下山した少年は関係者と抱き合い、喜びを分かち合った。



行方不明だった少年が無事に見つかり、感極まった様子で見守る人たち=14日正午、福岡県糸島市

支援施設には午前11時すぎに、捜索に参加していた職員から無事の知らせが届いた。「山の上の方で見つかった。無事だ」。事務職員（42）は「水分を取っているのか、誰かに連れて行かれてないかと心配していた。雨も降って大変だったはず。本当に無事でよかった。早く声が聞きたい」と胸をなで下ろした。施設長（59）は「必死に捜索していた母親の執念が実った」と涙ながらに話した。

糸島市消防本部の消防隊員は「捜索に当たった隊員は皆、何とかして見つけようと連日捜索してきた。無事に見つかって本当に一安心だ」。陸自第4師団の広報担当者は「発見の連絡を受け、ほっとした。隊員も安心していると思う」と話した。

雨で水分補給？「非常に元気」4日ぶり保護の男性 福岡

西日本新聞 2016年06月15日

福岡県糸島市の山中で行方不明になっていた森山将矢さん（19）が4日ぶりに保護された。診察した井上病院（同市）の井上健院長は記者会見し、「うまい具合に雨が降ったので水分補給ができたのかと思う。若いからなのか、非常に元気だった」と話した。

施設によると、森山さんはスナック菓子、あめ、キャラメル、クッキーを持たされていたが、食べたかどうかは不明。服装は行方不明になった時と同じで、ぬれていた。病院では「コーラが飲みたい」と話したという。

発見場所は二丈岳の中腹で、集落からミカン畑につながる道から外れて、斜面を登ること数十メートルの雑木林。小さな屋根だけの小屋のようなものがある。10日に行方不明になって以降、12、13の両日は雨が降った。

発見したのは障害者支援施設の関係者の男性(42)。沢を探索中に小さな屋根を見つけ、近づくと森山さんがいたという。声を掛けると、きょとんとした様子で、森山さんを知る職員が駆け付けると、「ほほ笑んで安心したみたいだった」という。

消防隊員が抱えて救出し、家族と抱き合った。10日から5日間で警察や自衛隊、消防の延べ600人が捜索活動を行い、母親も参加していた。施設の藤田勝利施設長は「お母さんをはじめ、家族の方が一生懸命に捜した愛の執念が実った」と話した。

社会福祉法人元職員が横領＝5年で1億6900万円－新潟・佐渡

時事通信 2016年6月14日

新潟県佐渡市の社会福祉法人「佐渡前浜福祉会」は14日、会計責任者だった30代の元男性職員が、5年で計1億6900万円を横領していたと発表した。横領を認めているといい、同会は業務上横領などの疑いで県警佐渡西署に告訴状を提出した。

同会の武部治雄理事長らによると、元職員は2010年11月ごろから、同会が特別養護老人ホームの大規模修繕費として積み立てていた資金を流用。借金の返済や競馬代に充てていたという。銀行口座の残高証明書を偽造するなどしており、発覚が遅れたとしている。

昨年8月、税務調査で不正が発覚。同会は元職員を懲戒解雇した。

障害者の就職5%増 5年連続で最高更新

中日新聞 2016年6月15日

静岡労働局が発表した静岡県内のハローワークを通じての二〇一五年度の障害者就職件数は、前年比5・9%増の二千六百七件だった。一三年度から障害がある人の企業の法定雇用率が引き上げられ、障害者雇用への意識が高まったことなどにより、五年連続で過去最高を更新した。

新規求職申込件数は1・4%増の千八百七十五件。就職率は、48・8%で前年より2・9ポイント上回った。障害種別の就職件数は、身体障害者が1・6%増の八百四十一件、知的障害者が7・2%増の七百五十八件、精神障害者が7・9%増の九百十五件だった。

民間企業における障害者の法定雇用率は一三年四月から、それまでの1・8%から2・0%に引き上げられた。雇用義務のない精神障害者を雇った場合も、障害者を雇用したとみなすことになった。

労働局の担当者は、就職件数の増加に関して「企業の意識変化のほか、少子高齢化を受けての人手不足への対応として、障害者雇用に注目する企業が増えている」と話す。

業界別の就職件数では、人手不足が進む医療・福祉がトップの八百五十七件。雇用の受け皿になりやすい製造業が五百五十三件、卸売・小売業が三百三十九件だった。

業務内容別にみると、身体障害者は「事務的職業」が27・5%と最も多かった。知的障害者は「運搬・清掃・包装などの職業」が全体の49・6%を占め、「事務的職業」は5・3%にとどまった。精神障害者は「運搬・清掃・包装などの職業」が34・5%、「事務的職業」は18・8%だった。

就職件数は年々増加しているが、一五年六月現在の県内企業の雇用率は1・86%と法定の2・0%を下回っている。法定雇用率を達成した企業は全体の49・4%だった。



(矢野修平)

故佐藤初女さんの福祉活動を紹介 岡山で15日から写真展



山陽新聞 2016年6月14日

佐藤初女さんを捉えた写真展で展示される作品例

青森県に山荘「森のイスキア」を開設し、さまざまな悩みを抱えた人たちを受け入れてきた福祉活動家の佐藤初女さん。2月に94歳で亡くなった佐藤さんの姿を捉えた写真展が、15～29日にルネスホール公文庫カフェ（岡山市北区内山下）で、7月1～29日にi c h i - c a f e（同市中区東山）で開かれる。

佐藤さんは森のイスキアを訪れた人の相談に耳を傾け、手料理でもてなして癒やし、再出発を支えた。披露するのは写真家・岸圭子さんが20年にわたって撮影してきた作品。佐藤さんの遺作となった写真エッセー「いのちをむすぶ」（集英社）

の収録作を中心に、未収録のものも加える。

公文庫カフェ（086-225-3009）は午前11時～午後10時（営業時間を短縮する場合がある）。火曜定休。15日午後6時から岸さんとエッセーの構成を担当したライター石丸久美子さん（笠岡市出身）が在廊する。

i c h i - c a f e（086-273-7336）は午前10時～午後4時。土・日曜休み。7月1日は岸さん、石丸さんが在店予定。

国保支援の圧縮検討 加入者負担増の恐れも 消費増税再延期のあおり

東京新聞 2016年6月15日

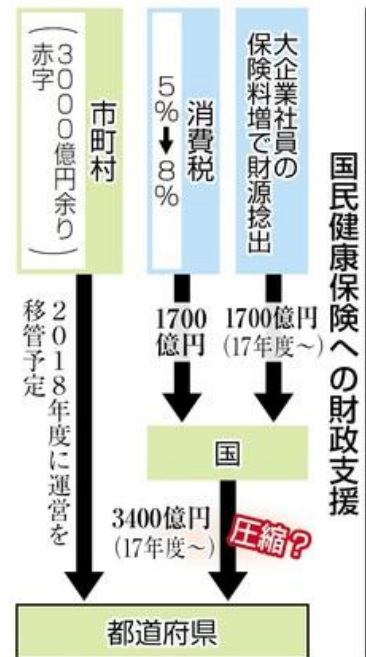
自営業や無職の人らが加入する国民健康保険（国保）への国の財政支援を圧縮する案が、政府内で浮上していることが十四日、分かった。二〇一六年度の二千三百億円弱から一七年度は三千四百億円に増やす予定だが、消費増税の再延期のあおりで、据え置きや小幅増にとどめることが検討されている。

市町村が運営する国保は低所得の加入者が多く、構造的に赤字体質にある。一八年度に都道府県に移管することになっており、財政支援が予定通り実施されないと、移管が危うくなる。保険料が上がるなど、加入者の負担が増える恐れもある。

増税先送りで、政府は社会保障の充実や一億総活躍社会の実現に向け、子育て分野などの財源を新たに確保する必要が出てきた。このため国保への財政支援の一部を回す案が持ち上がった。

一七年度の三千四百億円投入は、一五年一月の社会保障制度改革推進本部（本部長・安倍晋三首相）で決定し、国と地方は同年二月に合意している。今回の案はそれを変更する形になるため、地方からの反発は必至だ。

三千四百億円のうち半分の千七百億円は、消費税率を5%から8%に引き上げた増収分



から既に工面している。

残りの半分は、七十五歳以上の医療費を支えるために現役世代が払う支援金の計算方法を段階的に変更し、大企業の社員らの負担を増やすことで捻出（ねんしゅつ）することになっている。

厚生労働省は、三千四百億円を国保に投入すると、加入者一人当たり年約一万円の財政改善効果があると推計している。

障害者差別解消へ年度内に指針 栃木県、有識者委員会が初会合



下野新聞 2016年6月15日

4月施行の県障害者差別解消推進条例に基づいて新設された「県障害者差別解消推進委員会」の初会合が14日、県庁で開かれた。本県の実態に即した差別や合理的配慮の具体例を盛り込んだ対応指針を年度内に策定することを確認した。今後、障害者関係団体のヒアリングのほか、パブリックコメント（意見募集）を実施する。

同委員会は国の関係機関や障害者関係団体、事業者団体の代表者、有識者ら29人で構成し、委員長に畦上恭彦（あぜがみやすひこ）国際医療福祉大言語聴覚学科長、副委員長に星野雄一（ほしのゆういち）とちぎりハビリテーションセンター所長を選任。福田富一（ふくだとみかず）知事が「すべての県民が共感し具体的な行動につながる指針を目指し、活発な議論をお願いしたい」などとあいさつした。

この日は不当な差別的取り扱いとはならない「正当な理由」や合理的配慮の提供ができない「過重な負担」について意見を交わした。

国連で障害者権利委員選挙 静岡県立大の石川准教授を擁立 共同通信 2016年6月14日 静岡県立大の石川准・教授



ニューヨークの国連本部で14日、障害者権利条約に基づく164締約国・地域の対策の状況を審査する障害者権利委員会の委員選挙が行われる。日本政府は静岡県立大の石川准教授（59）＝富山県出身＝を擁立しており、当選すれば日本人では初めて。

委員は18人で2年ごとに半数が改選され、締約国による投票で得票数が多い順から9人選ばれる仕組み。今回は石川氏を含め計18人が出馬している。日本の他は、英国、ロシア、タイ、サウジアラビア、ケニアなどが候補を立てている。

石川氏は障害者支援技術の専門家で自身も視覚障害がある。日本政府の「障害者政策委員会」の委員長を務めており、2014年の締約国会議に政府代表として参加した。日本政府は「障害者の置かれる立場に精通する第一人者」と判断した。

社説：[参院選・社会保障] 将来へ続く「安心」示せ 南日本新聞 2016年6月15日

安定した年金で高齢者の暮らしを支え、保育環境などの充実で子育て世代を支援する。社会保障の充実は、少子高齢化が進む日本にとって大きな課題である。

共同通信社の参院選トレンド調査で、投票先を決める判断基準は「年金・医療・介護保険制度への取り組み」が29.6%、「子育て・少子化対策への取り組み」が10.1%で、計約4割に上った。

国民が求めるのは将来まで続く社会保障の「安心」である。参院選では与野党が財源も含めた具体策を示し、論戦を交わすべきだ。

安倍晋三首相は参院選を控えた今月1日、消費税率10%への引き上げを2年半再延期することを表明した。

民主（当時）と自民、公明の3党は2012年、社会保障と税の一体改革で合意した。消費税を10%に引き上げ、増収分を社会保障の充実に活用する。安定財源の確保と財政再建を同時に達成することが狙いだった。

しかし、増税再延期で、社会保障の財源確保は非常に厳しい状況となってしまった。

消費増税は国民に不人気の政策だ。だからといって、選挙の度に延期していたのでは、次世代に負担を先送りするばかりである。

南日本新聞社加盟の日本世論調査会が社会保障制度について行った5月の世論調査では、安定的な年金財源の確保策として「増税による給付水準の維持」と答えた人が24%で最多だった。

社会保障給付費の半分近くを占める年金は、団塊の世代が全て75歳以上になる25年には60兆円に達すると推計されている。

税負担によって高齢者を含めた幅広い世代が財源を担わなければ、年金制度が揺らいでしまう。調査結果は、こうした国民の危機感の表れともいえる。

増税による増収がなくなるにもかかわらず、自民党の公約には保育や介護の受け皿整備、保育士、介護士の処遇改善策などが並ぶ。「アベノミクスによる経済成長の成果」を充てるというが、安定的な財源とはとても思えない。

野党の公約にも社会保障や子育ての充実策が挙げられている。

民進党は、消費税増税を2年再延期し、行政改革を徹底して社会保障を充実させる公約を掲げる予定だ。しかし、行革だけで社会保障財源を十分確保できるのか、具体的な説明が必要だ。

各党は、国民の「痛み」を伴う政策についても、誠実に語ってもらいたい。

厚生省官房長に樽見氏

日本経済新聞 2016年6月14日

政府は14日の閣議で厚生労働省の官房長に樽見英樹審議官を起用するなどの人事を決めた。二川一男事務次官、岡崎淳一厚生審議官は留任する。21日付で発令する。

樽見 英樹氏（たるみ・ひでき＝官房長）83年（昭58年）東大法卒、旧厚生省へ。年金管理審議官、15年審議官。千葉県出身、56歳。

武田 俊彦氏（たけだ・としひこ＝医薬・生活衛生局長）83年（昭58年）東大法卒、旧厚生省へ。審議官、15年政策統括官。岩手県出身、56歳。

宮野 甚一氏（みやの・じんいち＝職業能力開発局長）82年（昭57年）早大政経卒、旧労働省へ。職業安定局次長、14年総括審議官。千葉県出身、57歳。

吉田 学氏（よしだ・まなぶ＝雇用均等・児童家庭局長）84年（昭59年）京大法卒、旧厚生省へ。内閣審議官、14年審議官。愛知県出身、54歳。

定塚 由美子氏（じょうづか・ゆみこ＝社会・援護局長）84年（昭59年）東大法卒、旧労働省へ。14年内閣審議官。埼玉県出身、54歳。

蒲原 基道氏（かもはら・もとみち＝老健局長）82年（昭57年）東大法卒、旧厚生省へ。障害保健福祉部長、14年官房長。佐賀県出身、56歳。

鈴木 康裕氏（すずき・やすひろ＝保険局長）84年（昭59年）慶大医卒、旧厚生省へ。防衛省衛生監、14年厚生省技術総括審議官。神奈川県出身、56歳。

福本 浩樹氏（ふくもと・ひろき＝政策統括官）84年（昭59年）東大法卒、旧厚生省へ。審議官、15年年金管理審議官。兵庫県出身、54歳。

